2023 年度　第１回　保育講演会

日　時　　2023 年 6 月 9 日(金)
テーマ　　ママがいい！「愛されている」～そう思う子に育ってほしい～
講　師　　音楽家・作家　松居 和先生

参加者 46 名(対面)

去る 6 月 9 日、松居先生の講演会を礼拝堂にて、対面そして YouTube 配信にて開催いたしました。松居先生のご講演は、2015 年、2018 年に続き、今回で 3 回目になります。今回は、2022 年に出版された著書「ママがいい！」に込められた思い、保育の現状やこの時代に大切なことは何か、子育てについてたくさんの熱いメッセージをいただきました。

＊＊＊＊＊＊

「ママがいい！」という叫びは親への勲章

「待機児童」なんて言葉はありません。保育所に入りたいと待っている 0･1･2 歳児はいません。
0･1･2 歳児は、母親と一緒にいたいのです。本のタイトルである「ママがいい！」は、子どもたちの叫びです。慣らし保育で「ママがいいー」と泣かれた母親は、自分がいい親だったという勲章です。子どもたちは駆け引きなしに、親がそばにいてくれるだけで喜んでくれる存在です。幸せのものさしが自分次第だと教えてくれます。
0･1･2 歳の３年間、どれほど可愛がられて、自分が生まれてきた世界を信じることができるかは、子どもの一生に影響を与えます。

福祉が進めば家庭は崩壊します

日本という国は、奇跡的に良い国です。子育てに関しては、世界で一番良い国です。なぜならば、先進国のなかで唯一日本だけが、家族・家庭というかたちにしがみついているからです。
しかし、政府の雇用労働政策による保育崩壊が止まりません。「欧米に比べて日本は（福祉が）遅れている」と言い、「エンゼルプラン」や「子育て安心プラン」など美しい言葉の裏で、保護者から親として育つ機会を奪い、保育がビジネス化されています。昨今の日本の政策は 11 時間保育を保育標準時間と定め、保育現場は悲鳴をあげています。さらに「0 歳児を預けることに躊躇しない親が増えている」と、役場の窓口の人たちは不安そうに言います。福祉が「子育て」の肩代わりを始めると、親子の絆が育たず、親の忍耐力も育たなくなり家庭崩壊が進む。これは欧米の数字を見れば明らかです。

最後に・・・

皆さんにお願いするのは、相談相手を作って卒園してください。お互いの子どもの小さい頃を知っている、これは二度と手に入らない相談相手です。
そして、卒園してからも年に 1 日でいいですから、自分の子どもをどっぷり幼児と過ごさせてください。幼児が皆さんの子どもを育ててくれます。
ここ（野毛山幼稚園）に来たことに感謝して、ここをふるさとにしてください。

＊＊＊＊＊＊

動画はこちら

講演会では終始、ここにはとても書き切れない量の素晴らしいお話で埋め尽くされていました。
子育てとは何か、人生とは、幸せとは、自由･不自由とは・・・
講演会にご参加できなかった方は、是非、YouTube 配信をご覧になってください。
松居先生、素晴らしいご講演を心より感謝申し上げます。

（スイトピー広報委員　萩原詔子、藤井美由紀、山内麻菜、吉原れい、渡邊有希子）

参加された方より（順不同）

ゆり組　山口　梢

先日は、貴重なお話を聞く機会を設けていただきありがとうございました。
三つ子の魂百までという言葉にもあるように、私も 3 歳までは自分で子育てしたいと自ら選んで子育てしてきましたが、その 3 年間（兄弟合わせると 6 年間）、幸せな時間ばかりではありませんでした。むしろ辛く我慢をする時間が多かったとも思います。でも今思い返すとあんなに愛おしい存在が自分を信頼して、抱っこするだけでニコニコしてくれた日々が懐かしくも感じます。松居先生のお話を聞いて、あの時間は間違っていなかったのだと、ふと肩の力が抜けた気がしました。
『自由にのびのび』言葉に支配されているというお話は耳が痛かったです。まさに自分のことだと感じました。今一度、立ち止まり言葉について考え『インドのカレー』と唱えたいと思います。
まだまだ続く子育ての途中、このようなお話が聞けてこの先の自分の子育て（親育て）について考えるきっかけをいただけました。
また、この野毛山幼稚園で自分自身のかけがえのない相談相手をみつけて卒園を迎えられるよう日々楽しく幼稚園に通いたいと思います。

ゆり組　野口真奈美

この度は、貴重な時間をありがとうございました。こんなに笑顔が溢れた講演会は初めてでした。あの場にいないとできない体験ができ、参加して本当に良かったです。
講演会の日のお迎えの後、息子とのこんな会話がありました。「ママがステキなママでよかった」
私も、「生まれてきてくれてありがとうね」と伝えると、「ママもパパと結婚してくれてありがとう」と。親馬鹿にはなりますが、なんて可愛い子なんだ！と思いました。
松居先生も 4 歳が完成形とおっしゃっていましたが、世の中でも“天使の 4 歳児”という表現があります。まさにこういうところなんだなと感じました。照れることなく、純粋な心で伝えることができる。思春期になったら、大人になったら、、きっと恥ずかしくて中々言えないでしょう。
「もう今しか言ってくれないかもね」「聞き逃したら勿体ないね」と夫婦で話しました。
松居先生のお言葉を聴いた後だったからこそ、この息子の言葉に、より嬉しさを感じました。そして、夫婦で幸せを共有する時間を持つことができました。
これからも息子に寄り添い、愛を感じながら親も子も成長する子育てをしていきたいと思います。
ありがとうございました。

スイトピー組　西　朱子

先生のお話の中で、砂場で遊んでいる 3.4 歳児を見てると、大人の成功者より幸せという話を聞いて、次の日公園で遊ぶ娘達を眺めてみました。ただ石を並べて遊んでいるだけで幸せそうで、本当だ！と思いました。子供を見ていると幸せとは何かを教えてもらえた気がしました。子供は自らを幸せにでき、親心も育ててくれている、何てすごいパワーを持っていることか、尊い存在だと教えてもらいました。親も心を込めて子育てしよう、できることは…？と改めて考えるきっかけをくださいました。先生の講演は 3 回目という事でしたが、何回聞いてもいいお話なんだと思いました。また聞きたいです。子育て中にこのお話が聞けて、この場を開催してくださった事に感謝します。ありがとうございました。

すずらん組　久保　範幸

先生のお話に引き込まれ、あっという間に過ぎた２時間でした。最初はショッキングな数字からお話が始まりましたが、所々声を上げて笑ってしまうお話もありました。
お話を聞いてから、子供達との時間をもっと大切にしていきたいと感じました。特に１歳になったばかりの次男と過ごす時間もまた、かけがえのないものだと強く認識しました。
本講演を企画していただいた、幼稚園の皆様にも感謝いたします。非常に良い刺激になりました。

すずらん組　久保　彩子

愉快なお話を混ぜながらも、子ども達と一緒にこれから抱えるかもしれない近い未来のいろんな問題や育児環境について緊張感を強く感じながらお話を聴きました。
同時に、子どもに親として育ててもらっているそんな大切な時間というお話にハッとさせられました。育児初心者で日々試行錯誤で挫けたり、迷子になりやすく、今回の講演のお話を思い返したり、幼稚園の先生方や先輩ママさんパパさんにアドバイスをいただきながら、家族みんなで愛情をかけて育てたいなと改めて思いました。この様な機会をありがとうございました。

スイトピー組保護者

松居先生のユーモアを混じえた貴重なお話、とても楽しく拝聴致しました。
こどもが親を育てるとは本当にその通りだなと日々感じます。
子育てを通じて自分の未熟さに気付いては反省したり、こどもの何気ない行動や言葉を愛おしく思ったり、新たな感情を知るようになりました。こどもの悲しい事件を聞くと、とても辛い気持ちになります。全てのこどもが安心して過ごせる未来ある社会になって欲しいと切に思いました。
野毛山幼稚園に入園して、優しい先生方に囲まれて毎日楽しく豊かな時間が過ごせていること、このような講演会を聞く機会が頂けることに感謝致します。

コスモス組　大島　茜

「赤ちゃんがいる家」何年も経ってしまいましたが松居先生が仰るように、とても不思議な素晴らしい時間だったな、と思い返しました。すっかり大きくなった息子達。
たくさんのお世話に追われる日々は過ぎてしまいましたが、赤ちゃんだった頃の愛しい時間を思い出しながら、日々「その子の命に感謝」し、可愛がって過ごしていきたいと思いました。それでも、ついつい口うるさく言ってしまいそうな時は「目くじらを立てる事じゃない」のお言葉を思い出しリセットできるようなお母さんになれたらと思います。そしてお母さんの笑顔！ですね。
松居先生、貴重なお話をありがとうございました。

ゆり組　稲葉千恵子

娘は幼稚園でたくさんの友達が出来た。私も娘のお陰でたくさんの友達が出来た。ママ友だ。
振り返ってみると入園前はとても孤独な時間を過ごしていたと思う。子育てが始まり間もなくしてコロナとの戦い。友達にも両親さえも簡単に会えなくなった。見えないウイルスの恐怖は人との距離を引き離したのだ。ウィズコロナの中、幼稚園生活はスタートしたがあまり不自由さは感じなかった。それは先生方が試行錯誤しながら多くの行事、日々の生活に向き合い、私たち親に寄り添って、子供たちを可愛がってくださるお陰だと思う。ママがいい！と言われると少し前までの私はぞっとしていた。それは気持ちの余裕が少しも無かったからだと思う。今でも余裕なんてないはずだ。けれど以前と違うのは、子育ての悩みを共感・共有し、時にお互いを励まし合ったり…愚痴をこぼしたり…
そして何より子供の成長を一緒に喜べる友達がいる。とても心強い。松居 和先生はお話の最後に「相談相手を作って卒園してください！」とおっしゃった。娘のお陰で私にはたくさんの友達が出来た。私はすでにインドの村の村民になれたのだ。笑いに包まれ、松居 和先生のお人柄を感じられた楽しい講演会でした。これまで保育の現場とかかわり、主張し、実践してこられた先生のメッセージを受け取り、これからも人との絆を大切に娘と一緒に成長させてもらいながら、私は少しずつ母親になっていきたいと思いました。

スイトピー組保護者

「ママがいい！」というタイトルを初めて見た時、とてもインパクトがあり強く印象に残ったことを覚えています。そして実際に本を読んで、保育の現状を知り大きな衝撃を受けました。恥ずかしくも私自身、美しい言葉を並べた保育政策になにも疑問を持つことなく、母親も働きやすい時代になってきたとしか思っていませんでした。しかし、その政策によって子どもたちが犠牲になっていることに初めて気付きました。「保育所に入りたいと並ぶ待機乳児はいない。」子どもの視点で考えたこともありませんでした。
衝撃と哀しみ、共感と激励、そして小野省子さんの詩「愛し続けていること」に涙しながら、あっという間に本を読み終え、松居先生の講演を楽しみにしていました。
なかでも心に響いた、子育ては「人生の美しい負担」という言葉。子どもが小さいうちは仕事をしない。就学しても“おかえり”と言って迎えてあげたい。出産をする前から私が望んでいたことでしたが、仕事と育児を両立されている方を羨望の眼差しで見ている自分に気付き、好きだった仕事をまた始めたい。けれどまだそのタイミングではないと自分に言い聞かせている今日、その言葉に私の選択を肯定してもらえたような気がしました。
講演会では松居先生が語られることで重みが増したお言葉に背中を押され、これからも続く子育てにたくさんの勇気をもらいました。
「子どもの幸せを願い、一生懸命に子育てをしたら、あとは祈るしかない。」子どもが成長すればするほど、そう遠くない将来を心配することが増えてきた今、その言葉を思い出しながら子育てをしたいと思いました。
このような貴重な機会をいただきましてありがとうございました。

卒園生アネモネ組保護者

母親になって７年が過ぎました。真っ只中にいると、どうすればよいのか悩んだり、思っていた以上につらく感じて、子育てが始まるまで、みな人類がやってきたことなのだから！と甘く見ていた自分を恥じることもしばしばです。

松居先生のお話を伺い、親が子どもを育てている以上に、親として子どもに育ててもらっているという喜びに日常はあふれていることに気づく大切さを感じました。母親が子育てをしながら笑顔でいるのはなかなか難しいと思いますが、子どもがどれだけ人に優しくされ、愛情をそそいでくれる存在に出会えたかということが、子どもの人生のよりどころになっていくことを忘れないようにしたいです。　まだ７年ですが、子育てをする中で、最後だとは気づいていなくて、あれが最後だったんだと後から気づくことの多さに、さびしさを感じることがしばしばあります。おんぶしてと言ったのはあの時が…。あの絵本を読んでとせがんだのはあの時が…。最初に立ち会える喜びは子育ての醍醐味ですが、育ちの過程の最後を見届けることもうれしいことなのかもしれません。見逃さないように、今を大切に子どもと向き合っていきたいです。

今回の講演会は、YouTube で拝聴いたしました。

このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

スイトピー組　山内麻菜

松居和先生の熱い語りの渦に飲み込まれ、気がついたら、先生の宇宙のなかに身を委ね、おもいっきり笑って、笑って、泣く、また笑って、泣く。そんな体験をした。誰かに、講演会どんなお話だった？と聞かれるたびに、とりあえず録画を見てみたほうがいい、と伝えた。

息子が赤ちゃんのころから、話をするようになるまで、散歩の帰り道に「お空の色が変わったよ、赤、だいだい、紫に桃色かな。綺麗だね～」、雨が降ったあと「土の匂いがするね。あ、ここ、葉っぱの上にしずくがあるよ」、池に石を一つ投げたり、まとめて投げてみたり、ぽとりと落としたり、勢いよく落としてる息子の隣で「石好きだね～～。ママもやってみようかな。あ、水に輪っかの模様ができたよ。面白いね」「ここに虫いるよ」「好きな車通ったよ」「虹が出てる」「面白い形の時計あったよ」「どうして泣いてるの、お腹すいてるのかな。どこかぶつけちゃったのかな」「この歌が好きなのかな。もう一回歌ってみようか」　盛大に独り言をもらし続ける日々が、それでよかったんだよ、と言ってもらえたようで少し泣いた。時々バスで見かける、独り言をもらすおばあちゃんは、もしかしたら子育ての名残りなのかなと思ったりもした。

体力も好奇心も無尽蔵な息子を育てるのは、容易なことじゃなかった。「からくり時計を見る！」と言ったときは、昼の 11 時から午後 3 時まで、その場で待ちながら 4 回のからくりを眺めた。朝から原っぱ、植物園、動物園、それが終わってもなお、「最後にあの山登る！」と笑う 3 歳児の息子を目の前に、私はついていくだけで毎日ヘトヘトだった。でも、息子がおもいっきり笑ってるとき、息子の寝顔を眺めてるとき、心の底から、幸せだなあと思えた。毎日そう思わせてくれる子どもの存在をありがたく思う。　園ではいつも、息子が喜んだり、悲しんだり、怒ったりした理由を、先生がたが丁寧に向き合って話を聞いてくださる。　園が終わったあと、駆け込むすぐ隣の公園では、お友達のお母さんがたが優しい眼差しで遊びを見守ってくれる。　私もまた、お友達が聞いて聞いて～と駆けてきてくれるのが嬉しいし、お友達と息子が元気に遊んでる姿を見て幸せを感じている。お母さんに見守られているよりも、お友達同士で遊ぶほうが楽しくなるその時までは、この幸せな時間を満喫したいと思う。

たくさんの優しい大人たちに囲まれて日々を過ごしている息子は、周りのお友達は、きっと人にも自分にも優しくできる人に育っていくだろうし、そうであってほしいと私たちは祈るのみだ。

スイトピー・ゆり組　井川　愛

松居先生の「ママがいい！」も拝読させていただきましたが、子供達が国や政府や大人の都合により振り回され、11 時間保育の現状など、それが保育の負の連鎖に繋がり、子供達の成長にも関係していることが分かり、子を持つ親として、とても悲しい気持ちになりました。講演会では「親子で共に苦労する」、「子育ては、可愛がる、寄り添うが 9 割」この言葉がとても印象的でした。自分の子育てを振り返ってみると、ちゃんとできていたか疑問になるところが沢山あります。こらから、こどもが成長していく中で、常にこの言葉を意識していきたいと思っています。

一人一人の保護者の意識が、これからの日本の保育の現状や、子供たちの未来を、明るい未来に変えていくことに繋がればいいな、と感じました。

講演会は、松居先生のユーモアのあるお話に笑い声が絶えませんでした。

自分の育児について考えさせられ、とても良い時間を過ごさせていただきました。

ありがとうございました。

ゆり組　村林あゆむ

お話が面白くて泣き笑いしながら聴かせていただきました。
私自身、日々一杯一杯で「お母さん！」「お母さん！」と事あるごとに連呼されると、そんなにお母さんお母さん言わないでよー！とつい言ってしまうことが多々あります。
でもそれを自分を頼ってくれている、信じてくれているのだと捉えると、確かに『ママがいい！』は勲章なんだと思えるようになりました。
貴重なお話をありがとうございました。

スイトピー組　山田千夏

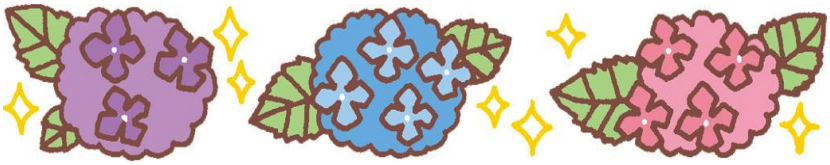
松井　和先生の講演で子育ての難しさや大変さを改めて感じ、それと同時にとても幸せな時間をいただいている事を知りました。　母になり、自分の嫌な本性に嫌気がさすこともありましたが、それですら幸せな時間なんだなと思う事ができました。私も含め家族の長所と短所をもう一度じっくり考え、幸せを計る上等なものさしを、私なりに持てるようになりたいと思います。
　あたりまえなのに気がつかなかった大切な事を楽しくわかりやすくお話しして下さったので、改めて考え自分や家族と向き合う事ができそうです。　貴重な講演をありがとうございました。

卒園生コスモス組保護者

親は子どもに、親にしてもらう…と聞いたことがあります。
松居先生も同じく、子育てが親を親にする。と仰っていました。
赤ちゃんが話せないのには意味があり、相手を理解しようと思った時が一番平和になる。
と聞いた時、赤ちゃんが話せないのは単純に成長過程だと思っていた自分は、子育てをもう少し頭柔らかくして子供と向き合わなければ…と思いました。
普段から、人の気持ちは自分の経験から想像するしか、出来ることはない。と思っており、だからこそ親身に寄り添って相手の事を考える＝思いやりだと思っています。
子どもたちは小学生になり、言葉の数も飛躍的に多くなりました。時には嘘もつきます(笑)そして親を試すかのように、小さな SOS を会話の中に織り交ぜてきます。嘘はたまには片目で見逃して、SOS は大小かかわらず見逃さずに、子どもたちと向き合っていきたいです。
そして松居先生が仰っていた、子どもの幼児期を知っている人は今しかいない。相談相手を見つけて卒園して欲しい。とアドバイスくださいました。その通りだと思います。一緒に講演を聞いていた隣の私の相談相手 2 人に、いつも感謝しています。卒園後も、子どもの話ができるのは本当にありがたい存在です。そして今回もこのようなお話を聞く機会をいただき、心から感謝申し上げます。また新たな気持ちで子育て出来そうです。

スイトピー・すずらん組　真栄田沙希

初めて参加させていただきましたが、想像していた「講演会」のイメージとはかなり違いました。内容は心にグサっと刺さるものも多かったのですが、ずっと笑いながらあっという間の時間でした。子どもが親を育ててくれるというお話は、「子供を預ける」だけではなく、まるで親も共に成長させてくださるような、野毛山幼稚園に感じた感覚と少し似ているなと思いました。
感情的に叱ってしまったり、日々後悔や罪悪感ばかりですが、そんな時は「この子たちが私を良い大人へ育ててくれている」「母親が元気ならオッケー」と今日のお話を思い出し、笑顔の母親でいたいです。
次回の講演会も楽しみにしています。
何か質問はありますか？と聞いてくださったのに、うまく言葉に出来ず、せっかくの機会に何も聞く事が出来ませんでした…
次回は今とはステージの違う悩みや、お聞きしたい事があると思います。成長した子どもたち・親として質問できたら嬉しいです。素敵な時間をありがとうございました。



ゆり組　一柳　巧

一番気になっていて書店へ行ったら真っ先に買おうとしていた本の著者である先生のお話しが聞けるなんてと楽しみに胸を膨らませていたおり冒頭から知らなかった事実、避けては通れない国際・社会情勢や問題、想像以上の破綻による皺寄せ、犠牲、代償に大きな衝撃を受けました。
それは同時に、現在いかに恵まれた環境で子育てが出来ているのかを実感する事にも繋がり、改めて幼稚園の先生方を始めとして関わりのある全ての方へ感謝の気持ちでいっぱいになりました。現状を危惧し未来へと伝承していかなければならない使命感が手に取るようによく理解出来ました。原点に戻るというシンプルかつ明快なメッセージ。しっかりと受け止めました。襟を正された思いで自分に出来る事として子育てを通して実行し続けていきたいと思います。
先生が紡ぎ出す屈託無い人間味あふれる言葉の数々よりお人柄や温かさが滲み出ていました。また子供がいかに尊くかけがえのない大切な存在で人として敬意を払われているのかも随所に感じられました。園長先生の仰ったようにしっかりと耳と目と心に残りました。私がそうであったように、その真髄が多くの人々へ届いてバイブルとなるように広めていきたいと思いました。
ところで愉快過ぎる例え話がこれまた的確で親友達と過ごす時間を彷彿させる泣き笑いを堪えるのに必死でした。あのアニメのくだりはズルい先生！大分苦しかったです笑
講演会の翌日‘教員が足らず１人が２クラス担当公教育の崩壊、教員の環境改善を東京都議らに要望’というニュースの見出しを見て現状を再認識しました。
実は先にこの感想を書いてから著書を正に二宮金次郎のような姿勢で一気に拝読しました。「おかあさんどこ」と共に涙が止まらなかったです。
だけど１箇所の訂正もないまま提出できるのは、あの短時間でも思いの丈、全部を詰め込ませられた先生の魂への語り掛け、そして本物の教育精神が通じた賜物だと思います。
後日、夫とも共有しこのタイミングで出会えて本当に良かったです。
何か聞きたい事、質問は？とありましたが...それは再びお話しを聞けるのはいつなのか？と‘聴きたい事’では尺八です。是非また先生節と共に演奏も聴ければ幸いです。
この度は今一度、立ち還り考えるという貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。
素晴らしい子供達に宇宙の大原則、万歳。

お母さん、どこ

「ヒカリちゃんのお母さん、どこかしら」
「ここにいるじゃない」
「それはコウちゃんのお母さんでしょ」

弟を抱いた私に、娘は言った
長いまつげの小さな目は
悲しげにも見えたし、
何かをためしているようにも見えた

「じゃあ、ヒカリちゃんのお母さんはどこにいると思うの」
「病院に寝ているんだと思う。パアパが言ってたよ。
　ヒカリちゃんのお母さんは、病院に行ったよって」

娘は、私が弟を出産した日のことを言っているのだ
「お母さんをむかえに行かなくちゃ」
玄関でくつをはこうとする娘の
小さな背中を見ていたら
私は
夕闇の中で
大切な人に置き去りにされたように
心細くてたまらなくなった

同時になぜか
動揺している自分が
くやしくもあるのだった

娘はふり返って
私が泣いているのを見て
「あっ、ヒカリちゃんのお母さん、
　やっぱりここにいた」と
無邪気な風に言うのだった

講演の中で松居先生がご紹介くださった詩
「お母さん、どこ」by　小野省子　より